



KANEYAMA
地域おこし
協力隊がゆく!
柴田学 隊員

盛大に行われた金山まつりの3日目。3年目となる「かねやま青空音楽祭」を企画させていただき、暑い夏を金山町で過ごさせていただきました。県内アーティストにこだわった同イベントに、今年は河北町出身のビジュアル系演歌歌手「最上川司さん」に出演していただき、曇天時折雨にも見舞われましたが、県内外合わせて300名以上のお客様がステージを見て下さいました。遠くは東京からも来て下さったとの事、遠方の方、町内の方も本当にありがとうございました！ご来場下さった方々からいただいた喜びの声や提案は、全て今後の企画に活かし、よりたくさんの方に楽しんでいただけるイベントを作っていきます。

目標は2つ。1つは今年度の任期後も毎年求められるイベントにすること。2つ目は金山町内アーティストのみで一つのイベントを企画すること。今年町内アーティストは4組でしたが、高校生バンドなど発掘して倍に増やし、実現させたいと考えています。出演希望者はぜひご連絡を！

金山町の人口は、**5,707人**
8月末現在

- 男性 2,775人 (-2)
- 女性 2,932人 (-9)
- 世帯数 1,768世帯

▶ 8月の異動 ● 出生 / 5人 ● 死亡 / 6人
● 転入 / 3人 ● 転出 / 13人

編集
幸記

▼8月に引き続き、9月も「アラート」が放送されました。「金山に被害が及ぶことはないだろう」などの油断は禁物。外にいる場合は屋内に戻り、屋内にいる場合でもできるだけ窓のない部屋に移動するようにしましょう。また、この時期は台風にも注意が必要。ハザードマップや町のメールから情報を仕入れて、防災意識を高めておくことも重要です。

▼四季の移ろいが色濃い金山において、秋は特に過ごしやすく感じるもの。食欲の秋、スポーツの秋、読書の秋、芸術の秋。皆さんはどんな秋をお過ごしでしょうか。筆者はもっぱら食欲の秋です。(つま)

~秋の収穫祭~ **金山さんち!**



ああっ狙ってた金山牛が! 作者:小栗こぐり

No.142

「森の子ども図書コーナー」
交流サロンぼすと内



『とんでもない』
(鈴木のりたけ / 作・絵 アリス館)

ぼくはどこにでもいる普通の男子。ぼくにしかできないこと、ぼくにしかないすごいところ、そんなのひとつも見つからない。サイはいいよな。よろいのようなりっぱな皮がカッコいい! とんでもない、重いんだよ。これで動き回るためには力が必要でたくさん食べなくてはならない。うさぎみたいに身軽にぴょんぴょん跳ね回ってみたいよ! とんでもない、跳ね過ぎちゃって困ることもあるんだよ! ...このあともたくさんの動物が自分にしかわからない悩みを打ち明けます。みなさんだったら、どんな動物になりたいですか? おまけのしかけも面白い絵本です。



▼あなたの隣に孤独
樋口有介 / 文藝春秋



▼犬が来る病院
大塚敦子 / 角川書店

15年間「あの人」から逃げ回りながら母親と二人で住む場所を転々としながら生きてきた十四歳の玲奈。彼女には戸籍がない。その母親がある日突然「アパートには帰ってはダメ。必ず連絡はする。あの人にみつからないように!」と言って失踪する。学校からも社会からも切り離された玲奈に手を差し伸べるのは?

難病と闘う子どもたちに素晴らしい贈り物! 日本で初めて小児病棟にセラピー犬の訪問を受け入れた子どもたちが豊かな時間を過ごしているように、医師や看護師等多くのスタッフたちで行われる取り組みを、4人の子どもの生死を通して描いた感動の記録。

- 10月新刊本
- 四時過ぎの船 / 古川真人
 - ごめんなさい / サトシン
 - 魔法のゼリー / 荻田尚子
 - もっと、やめてみた / わたなべぼん
 - 波形の声 / 長岡弘樹
 - ストロベリーライフ / 荻原浩
 - 犬が来る病院 / 大塚敦子
 - とるとだす / 畠中恵
 - 顔二モマケズ / 水野敬也
 - もし文豪たちがカップ焼きそばの作り方を書いたら / 神田桂一

ぶんげい
金山杉俳句会報 第四〇八回

- 里がえり祭囃子と子等の声 昭子
- 雷鳴がとどろく道の吾亦紅 洋子
- 二星に願いをかけて竹かざり サダエ
- 山百合のかほり飛び散る野辺の道 敏子
- 水澄みて掬へば光こぼれけり よし子
- 秋晴れの光重なり露天の湯 順子
- 朝顔や一汁一菜箸一膳
- 月山の裾野に展く蕎麦の花
- 風車村車窓に展く稲の花
- 紫は母の好みし盆の供花
- 帰省子や荷物置なり仏の間へ
- 虫の声明日のおかずパスタ煮る
- かねやま紅風会 荒屋 阿部 勝子
- 七夕の飾りに育つ子らの夢 荒屋 関 喜美子
- 茄子の出来亡夫へ感謝の意を捧げ 菅越 庄司けみ子
- 蜻蛉と遊ぶ寸暇の余裕かな 菅越 庄司けみ子
- 宵闇の水面さまよふ秋螢
- 灯籠の二つ寄り添ひ流れゆく
- コスモスの揺れ合ふ道を一人かな 七日町 青柳キエ子
- 蝸や亡父母と過ごせし日の遙か 七日町 柴田 栖静
- 盆をどり辻でふくらむ人の影
- 千の風語るか鯉の舞ひ踊り 羽場 坂本徳太郎
- 面影を偲びて仰ぐ星月夜
- 幼子や曳き網余す夏まつり 上台 阿部 一
- 朝顔の削る日蔭を老で占め
- 歌声や厄日の空に風もなく 七日町 村松 奈風
- 言もなく釣瓶落ししの秋が来る
- 流星や老には迅き日のめぐり
- 風鈴の音の果てを追ふ喪に在りて